

平成30年 12月26日	病害虫発生予報 1月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
-----------------	------------------------------	------------------------

**イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカの越冬場所を減らすため
畦畔等のイネ科雑草の防除を徹底しましょう！**

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	1
促成トマト：灰色かび病	2
【その他の病害虫】	
イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ，共通害虫	2
【防除所レポート】	
平成31年版果樹病害虫参考防除例について	3
II. 今月の気象予報	5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>

＜HP QRコード＞



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率（本年値 9.8%，平年値 9.7%）は平年並、発生地点率（本年値 30%，平年値 51%）は平年よりやや低い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病度*（本年値 11.0，平年値 2.9）は平年より高く、発生地点率（本年値 50%，平年値 52%）は平年並である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を導入している場合は、影響が小さい薬剤を選択する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在，発病株率（本年値 1.1%，平年値 0.5%），発生地点率（本年値 14%，平年値 9%）ともに平年並～やや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため，暖房，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤散布は，薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードの異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
- ④ 薬剤散布は，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：少ない	12月中旬現在，平年より少ない発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや少ない	12月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並～やや少ない	12月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。
促成キュウリ	べと病	発生量：やや多い	12月中旬現在，平年よりやや多い発生である。
共通害虫	ハスモンヨトウ	発生量：やや多い	12月中旬現在，イチゴおよび促成ピーマン圃場で被害を認めており，平年よりやや多い発生である。

平成31年版果樹病害虫参考防除例について

病害虫防除の際には、効果的な防除時期と薬剤を選定し、体系的な防除対策を講ずる必要があります。また、主要な病害虫の発生生態や例年の発生状況をふまえた上で、薬剤耐性・抵抗性の発達を抑えること等も考慮しなければなりません。特に果樹は栽培期間が長く、防除体系が複雑です。そのため、茨城県果樹病害虫参考防除例編成会議では、県監修により6作物7種の果樹病害虫参考防除例（以下、防除例）を作成し、農薬の適正使用および効果的な防除の推進を図っています。

平成31年版の各防除例について、平成30年版からの主な変更点を以下にまとめました（図）。利用にあたっては、これら変更点に十分に注意しましょう。また、過度の農薬散布を防ぎ、農薬による危被害のリスクを下げるためにも、冬季の落葉処理や粗皮削り等の環境にやさしい防除技術を導入した上で、発生予察情報や自分の圃場における病害虫の発生状況を十分確認し、必要に応じた薬剤防除を行うようにしましょう。

なお、平成31年版は、平成30年10月1日現在の農薬登録内容に基づいて作成しています。登録内容は変更になる可能性がありますので、農薬使用時は必ずラベルおよび登録変更に関するチラシ等を確認して適正に使用して下さい。

平成30年版

品目	時期, 記載場所	薬剤名	変更内容	変更理由
ナシ*	6月上旬 注意事項欄	バイオセーフ	薬剤の入れ替え	①
	7月中旬 本欄	MR. ジョーカー水和剤 アンビルフロアブル	追加	②
カキ	8月中旬 本欄	キノンドー水和剤80	薬剤の入れ替え	③
	9月上～下旬 本欄	アグロスリン水和剤	薬剤の入れ替え	④
	9月上～下旬 注意事項欄	モスピラン顆粒水溶剤	削除	⑤
	9月上～下旬 注意事項欄	—	追加	⑥
クリ	8月上～中旬 本欄	エルサン乳剤	対象病害虫名の削除	⑦
	休眠期	—	追加	⑧
ウメ	剪定後～開花終期 注意事項欄	—	追加	⑨
リンゴ	6月中旬 本欄	スプラサイド水和剤 オンリーワンフロアブル	追加	⑩
	6月下旬 本欄	サイアノックス水和剤	薬剤の入れ替え	⑪

平成31年版

変更後
ロビンフッド
MR.ジョーカー水和剤 アンビルフロアブル ベルコートフロアブル
ストロビードライフロアブル
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤
—
アグロスリン水和剤
モモノゴマダラノメイガ (クリイガアブラムシ削除)
機械油乳剤95
フェニックスフロアブル
スプラサイド水和剤 オンリーワンフロアブル チオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル
アタブロンSC



*露地赤ナシ無袋栽培

図 果樹病害虫参考防除例の主な変更点（薬剤の追加・削除等があった箇所）

平成 31 年版果樹病害虫参考防除例について（続き）

○変更理由は以下のとおりです。

【露地赤ナシ無袋栽培】

- ① ロビンフッドはバイオセーフに比べて、使用方法が簡易です。また、防除対象とするヒメボクトウの多発生園が現在は少なくなり、ロビンフッドで対応が可能と考えられるためです。
- ② 日本植物病理学会 殺菌剤耐性菌研究会の策定する「耐性菌対策のための DMI 剤使用ガイドライン」によると、耐性菌の出現を遅らせるために、DMI 剤を他剤と混用して使うことが推奨されているためです。

【カキ】

- ③ 収穫が近い時期に濃度の高い剤を散布すると、果実が汚れるおそれがあるためです。
- ④ 現地で問題となっているカイガラムシ類の防除を強化するためです。また、殺虫剤の作用機構分類において、IRAC コード 3A の薬剤が 8 月 9 月と 2 回連続で記載されており、殺虫剤によって天敵も駆除してしまうこと等が要因となり、害虫が増加するリサージェンスのおそれもあるため、片方を IRAC コード 4A の薬剤に変更しました。
- ⑤ 本欄でカイガラムシ類防除対策を強化したため、注意事項欄の剤は削除しました。
- ⑥ 本欄の薬剤もカメムシ類に登録がありますが、カメムシ類が多発したときは、別途防除が必要であるためです。

【クリ】

- ⑦ 記載時期はクリのイガが伸びており、クリイガアブラムシに薬液がかかりにくく効果が低いため、クリイガアブラムシを対象病害虫名から削除しました。
- ⑧ 現地で問題となっているカイガラムシ類対策のためです。

【ウメ】

- ⑨ 多発園が散見されるコスカシバ対策のためです。

【リンゴ】

- ⑩ 日本植物病理学会 殺菌剤耐性菌研究会の策定する「耐性菌対策のための DMI 剤使用ガイドライン」によると、耐性菌の出現を遅らせるために、DMI 剤を他剤と混用して使うことが推奨されているためです。
- ⑪ 掲載されている殺虫剤の作用機構分類が IRAC コード 1B と IRAC コード 4A で大半を占めており、抵抗性リスク管理を考えると別のコードの剤に変更した方がよいと考えられるためです。

【露地巨峰・雨よけ巨峰】

※薬剤の変更はありません。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 12月22日から1月21日)

気象庁(12月20日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	30	50
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 12月22日(土曜日)から12月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 12月29日(土曜日)から1月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率50%

<3週目から4週目の予報> 1月5日(土曜日)から1月18日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成30年4月26日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。